がん化学療法を
受けられる方へ

広島市立広島市民病院

１．がん化学療法とは・・・

がん化学療法は抗がん剤を全身的、もしくは局所的に、点滴などによって体内に投与する方法です。投与方法は病気の種類や部位、薬の種類や量、投与期間などによってそれぞれ違ってきます。このため、主治医は「薬の特性」と「患者さまの状態」の両面から、最大限の効果を引き出すための治療スケジュールを組むことになります。ですから、このスケジュールに沿って治療を受けていただくことが非常に大切になってきます。何らかの事情により、指示されたスケジュールどおりに治療が受けられない場合には、前もって主治医に伝え、事情に応じた適切な指示を受けるようにしましょう。

２．治療を受ける際の注意事項

薬の中には、現在治療を受けている薬の副作用を強めたり、効果を弱めたりするものもあります。そのため、薬の「飲み合わせ」による弊害が起こらないように注意することが必要です。他の科や別の病院から処方されている薬はもちろんのこと、市販薬を服用している場合についても、主治医に必ずお知らせください。また、治療開始時に主治医から処方された薬以外の薬を飲み始める場合や、それまで飲んでいた薬をやめる場合にも、忘れずにお知らせください。

３．体調について

治療を受ける日は、まずその日の体調を、主治医や看護師に詳しくお話ください。また、吐き気や嘔吐がひどくて食べられない、だるくて動きたくない、治療に伴う体の痛み、下痢やそのほかの症状による体調不良がある場合は、遠慮なく主治医や看護師にお知らせください。

４．注射部位に痛み・熱感など異常を感じた場合

投与に際し痛みを感じることや、熱く感じること、冷たく感じることがあれば主治医や看護師にお知らせください。また、注射している部位が膨らんでくることがあれば、すぐに主治医や看護師にお知らせください。

５．治療を受けている時の食事

治療中の食事は非常に大切です。十分な栄養を摂ることにとって化学療法の副作用を克服しやすくなりますし、感染に対する抵抗力も向上する上、回復力も高まります。多く食べるというより、少量でもバランスよく、多品目を食べるように心がけてください。また、食事は栄養面でも重要ですが、生活を豊かで楽しいものにしてくれます。無理をしないで、ゆったりと楽しい食事を心がけてください。また入院中の患者さまについては食欲のない場合、食事の内容について変更させていただくことができますので、遠慮なく主治医や看護師にご相談ください。

（1） 食欲がないとき

① 三度の食事にこだわらず、食欲のある時に食べるようにしましょう。
② 目先を変えて、バラエティに富んだ料理を楽しみましょう。
③ 食事の前に散歩などをすると食欲が出ることがあります。
④ いつもと違った場所で食事をするなど、雰囲気を変えてみるのも一案です。
⑤ なるべく家族か友人と食事をしましょう。
⑥ 一人で食事をする時はテレビを見たり、あるいは、ラジオや音楽を聴きながら食べるとよいでしょう。個人個人に合ったペースで食べるとよいでしょう。

（2） 味覚異常がある時の工夫

① 塩味、しょうゆ味を苦く感じたり、金属味に感じる場合
塩味を控えめにし、だしの風味・甘味、ゴマの香りを利用する。
酢を用いるなどの工夫をしてみてください。

② 甘味に敏感になり、何でも甘く感じる場合
少し濃い味付けにする。
砂糖やみりんを控えるか、使用しなくても食べられる料理を選びましょう。
汁物は甘く感じない場合が多いので、汁物の回数を増やすなどの工夫をしましょう。

③ 味を感じない場合
濃いめの味付けでメリハリをつける。
酢の物・汁物・果物の回数を増やす。
食事の温度を人肌程度にするなどの工夫をしてみてください。

（3） 飲　酒

少量のアルコールは食欲を増進させることもありますが、主治医に相談をしてみてください。

（4） ビタミン類

ビタミン剤で病気が治るということはありません。また、ビタミン剤を飲んだほうがよい方もいれば、むしろ悪くなる方もいますので、ビタミン剤を飲む場合には、必ず主治医に相談してください。

（5） カロリー食品を摂る工夫

① 味噌汁に豆腐や卵を入れる。
② 食パンを牛乳で煮てパン粥にする。
③ 豆腐をひき肉入りのあんかけ風に調理する。
④ 一口大の果物にヨーグルトをかける。

６．気持ちを楽にするためのポイント

治療を受けていると、多くの方は病気や化学療法に対する不安を経験するのではないでしょうか。これはごく当たり前のことで、多くの方に見られる化学療法の“精神的副作用”と言っても差し支えないでしょう。
身体的副作用には、副作用を軽減し、対処する方法があります。同じように精神的副作用に対処する方法もいくつかあります。自分自身の気持ちの持ち方で病気とのかかわり合いがかわってくるかもしれませんので、次のことを参考にしてください。

（1） いろいろな人と話をしましょう

主治医や看護師にはどんなことでも遠慮しないで気持ちをぶつけてください。直接、話しにくい時は用紙に記入してお持ちください。主治医や看護師は少しでも力になれるように努力していきます。
家族や友人と話をするだけでなく、カウンセリングできる方と話をするのもよいでしょう。

（2） ストレッチ体操をしてみましょう

いろんなことを考え込まず、自分自身への励ましと気分転換のために、軽いストレッチ体操をしてみましょう。
楽な姿勢でリラックスし、10 分間程度目を閉じて深呼吸をしてみましょう。

（3） 気分転換を図りましょう

趣味を見つけてみましょう。テレビ、読書、映画、散歩、パズル、手芸、プラモデルなどで時間を楽に過ごす工夫をしてみましょう。

（4） イメージトレーニングをしましょう

病気と闘っている自分を想像しながら、闘いに精神を集中してみましょう。

（5） 適度な運動を行いましょう

必要以上の安静は気分転換が図れず精神的に不安定になったり、消化吸収を妨げたりすることにもなります。一般的には動悸・息切れが出現しない程度の運動を個人に合わせてしてみましょう。

7. 副作用について

化学療法はがん細胞を標的として、抗がん剤の殺細胞効果に期待する治療法です。しかし、現在のところ、選択的に腫瘍細胞のみに作用する抗がん剤はないため、正常細胞にもなんらかに影響が現れます。その結果として、抗がん剤が患者さまの体に与える不利益な影響を副作用（薬物有害反応）といいます。副作用は、現在我々が使用できるすべての抗がん剤に多少なりに認められるものであり、抗がん剤の種類によって多彩です。抗がん剤を投与する際には、あらかじめ副作用の予防策を立て、投与スケジュール、投与量、薬の組み合わせ等充分に検討していますが、副作用には予測しがたい側面もあります。これから副作用について説明いたしますので、よく読んでいただき不明な点があれば、遠慮なく主治医や看護師にご相談下さい。

一般的な副作用：吐き気、嘔吐、脱毛、だるさ、貧血、出血、感染、口内炎、下痢、便秘

悪心・嘔吐・食欲不振・味覚異常

１.原　因

嘔気・嘔吐は、通常脳の中枢（嘔吐中枢）からの指令で起こります。抗がん剤が投与されると、脳の嘔吐中枢に直接影響を与える、口・胃・腸などの消化管の粘膜の変調や破壊され食べ物や飲み物の味が変わって感じるようになります。また、抗がん剤の投与により身体がだるいなどの症状により、普段より活動的でなくなり、それも食欲の低下につながります。

２.発症時期と持続時間

使用する薬剤により違いがありますが、薬剤使用１～６時間後に始まり、２４～３６時間以上持続します。また、人により軽い吐き気を感じる人、数時間から２４時間にわたり激しく嘔吐する人、前回の投与時の嘔吐の経験から薬剤を使用する前から吐き気を感じる人など様々です。

３.対　策

① 薬物療法：悪心、嘔吐を予防する為に抗がん剤投与前に、制吐剤を点滴します。現在は非常に効果のある制吐剤を組み合わせる事により（セロトニン受容体拮抗剤とステロイド剤など）９０％の悪心、嘔吐は予防できます。最初に処方してもらった薬で効果のない場合は、別の薬を処方しますので医師や看護師に相談してください。
② 嘔気予防のために、食事の前に氷水、レモン水、番茶などでうがいしたり、氷の破片やキャンディーなどを口に含んでみましょう。
③ １回の食事量を少な目にして、ゆっくり時間をかけて食べるよう心がけましょう。
④ 甘い物や脂っこいものは控えましょう。
⑤ 食欲がない場合は、よく冷えた果汁飲料（リンゴジュース・グレープジュースなど）や、弱発泡炭酸飲料（ジンジャエール）、果物、ヨーグルト、プリンなどお勧めです。
⑥ 食物の匂いが気になる場合は、冷やした料理や室温にさました料理がお勧めです。米飯やお粥の匂いで吐き気が増強する場合は、主食をパンや麺類に変更してみましょう。
⑦ 食事量が少ない場合は、栄養補助食品（カロリーメイト・ヴィダーインゼリーなど）も食べてみましょう。
⑧ 食後はゆっくり楽な姿勢で休息をとりましょう。
⑨ 身体をしめつけない衣類を着てみましょう。
⑩ 吐き気を感じたら深呼吸をしてみましょう。
⑪ タバコの臭いや香水の臭いでも吐き気がある人もいますので、臭いを感じなくてすむよう周りの人にも協力してもらいましょう。
⑫ 体重が急速に減少している場合（例：１週間で 3kg）は、医師や看護師に相談してください。
⑬ １～２日間まったく食事が取れないときや、一日中、嘔吐が続く場合は、病院に連絡し、主治医や看護師に相談してください。

脱　毛

１.原　因

化学療法は、分裂の過程にあるがん細胞と正常細胞の両方を攻撃するため、がん細胞だけでなく毛嚢細胞も含め、活発に分裂を繰り返す細胞に最も損傷を与えます。（化学療法の種類と容量によっては、頭髪、眉毛、睫毛、陰毛の一部または全部抜け落ちる場合があります。）

頭部の全部または大半が抜け落ちる過程は、通常、化学療法開始から約２～3 週間後に、頭皮がうずくような感覚で始まります。毛の大半が数週以内で抜けることもあります。これは、化学療法実施中ずっと進行します。化学療法終了後、脱毛の回復は比較的早く、終了後しばらくすると生え始め、通常約６ヶ月で回復します。脱毛が始まると、落ち込む方もいらっしゃいますが、治療が終われば元どおりに生えてきますので心配しすぎないようにして下さい。深刻に考え込まず、むしろ自分の率直な気持ちを誰かに聞いてもらい精神的な受け入れられるような気持ちのゆとりが持てるよう心がけてください。

２.対　策

① 髪を清潔に保ち、マイルドタイプのシャンプーを使いましょう。
② 毛の柔らかいブラシを使いましょう。
　（ホットカーラーの使用は避けヘアドライヤーの温度は低温で使いましょう。）
③ パーマ、カラー等は避けましょう。
④ あらかじめ、髪は短めにカットしておいた方がいいでしょう。短い方が上にボリュームがあるようにみえ、手入れが簡単です。
⑤ 希望に応じ、カツラ、スカーフ、帽子を使用しましょう。
⑥ 外観についての感情や疑問等、遠慮なく看護師や医師に相談しましょう。

白 血 球 減 少

１.原　因

化学療法による骨髄障害のため、白血球が減少します。白血球が減少すると、感染と闘う力が弱くなり、非常に感染しやすい状態になります。このため、肺炎をはじめ、口内、皮膚、尿路、肛門、性器などの感染に対する注意が必要です。
化学療法中は頻繁に血液検査が行われますが、これは骨髄に対する障害度を調べ、感染に対する抵抗力を見ることが目的です。白血球が極端に少なくなった場合は、次回の化学療法を延期したり、使用する薬の量を少なくします。なお、最近は白血球（好中球）を増やす薬が使用されるようになり、薬の量を減らさずに治療を続けられる人が増えてきています。発現時期は投与後数日から２週間目くらいです。

２.対　策（白血球が少ないといわれた時に気を付けていただきたいこと）

① 手洗いを励行してください。食事の前や、トイレの前後には丁寧に手を洗いましょう。また、外出後はうがいをしましょう。
② 排便後の肛門周囲の清潔に心がけましょう。（ウォシュレットの使用など）痔瘻のある方や、肛門周囲に違和感が感じられるようになった時は、主治医や看護師に相談してください。
③ 感冒、インフルエンザ、百日咳、水疱瘡にかかっている人には、感染する可能性がありますので、近づかないようにしましょう。
④ 人ごみに出ないよう注意しましょう。
⑤ 傷をつくると感染しやすいので傷をつくらないように注意しましょう。もし、切り傷、擦り傷をつくってしまった場合には、すぐに石鹸で洗い、お湯で流し消毒薬をつけてください。
⑥ ヒゲ剃りは、電気カミソリを使用しましょう。
⑦ 毛先の柔らかい歯ブラシを使用し、口の中を傷つけないようにしましょう。
⑧ 吹き出物などをつぶしたりするのは止めましょう。
⑨ 環境の清潔（室内の掃除）に心がけましょう。
⑩ なるべく火を通したものを食べるようにしましょう。
⑪ ３８度以上の発熱に対しては、（あらかじめ処方されている場合は）抗生物質を服用しましょう。それでも熱が下がらない場合には、病院に連絡をとり、主治医の指示に従ってください。

３.感染の典型的な症状

① 発熱（38℃以上）、悪寒などの風邪症状
② 排尿痛、頻尿、血尿
③ のどの痛み、咳
④ 帯下（おりもの）の増加、性器からの出血、陰部のかゆみ
⑤ 傷口、吹き出物の周囲の発赤または水ぶくれ
⑥ 目の充血、眼脂
⑦ 口内炎（口腔内の発赤、疼痛）
⑧ 肛門周囲炎、疼痛など

血 小 板 減 少

１.原　因

化学療法による骨髄障害のため、止血に重要な役割を担う血小板が少なくなることもあり、ちょっとした傷でも血が止まりにくくなったり、打ち身などで内出血を起こすことがあります。気が付かないうちに打ち身ができていたり、皮下に紫斑がでたり、尿が赤みをおびたり、便が黒ずんだりということがあれば、必ず主治医に報告しましょう。

歯ぐきからの出血や鼻血などの場合も同様です。

血小板の減少程度によっては、血小板輸血などを行います。

２.対　策

① 主治医から処方されている薬以外の薬を飲むときには、必ず主治医に相談してください。

② 採血や静脈注射をした場合は、注射針を抜かれた後の出血を防ぐため、針を刺した箇所を少なくとも５分間圧迫してください。

③ 歯ブラシはごく柔らかいものを使用してください。

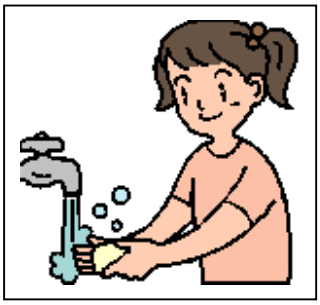
④ 歯の治療を受ける場合は、事前に主治医に相談してください。

⑤ 刃物や工具を使用する際は、十分に気をつけましょう。

⑥ アイロンがけや料理を作る際には、やけどに注意しましょう。

⑦ ケガをする可能性のある過激な運動は慎みましょう。

⑧ 庭作業をする時や、トゲのある植物の近くで仕事をする場合には十分に注意しましょう。



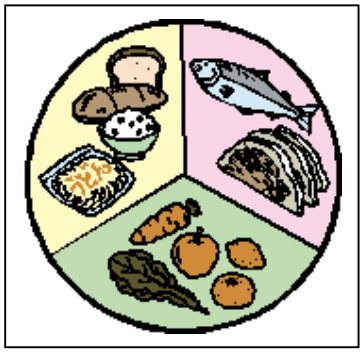
赤血球減少（貧血）

１.原　因

ほとんどの抗がん剤は、血液を造るために重要な働きをする骨髄を障害する作用があります。したがって、化学療法を何回か繰り返すと、全身に酸素を運搬する赤血球が不足し、貧血状態になることがあります。貧血状態になると、体に力が入らない感じになり、疲れやすくなるほか、めまいがする、寒気がする、息苦しくなるといった症状がみられます。慢性的な症状のため自覚症状を訴えないことも多いのですが、このような症状がみられたら、主治医にその旨を報告してください。
極端に赤血球が減少していれば輸血などの措置がとられることがあります。

２.対　策

① 十分に休養をとりましょう。
② （夜間の睡眠はもちろん大切ですが、できれば昼寝もしたほうが良いでしょう。）
③ できるだけ体を休め、必要のないことはしないでおきましょう。
④ しっかり食事をとりましょう。とくに鉄分には気を配り、レバーや赤身の肉を積極的にとるほか、レタスなどの緑色野菜も十分に食べるように心がけましょう。
⑤ ベッドから起き上がる時や、椅子から立ち上がる時は、ゆっくり体を動かすようにしましょう。
⑥ 買い物、育児、家事、運転などは、できるだけ家族や友人に手伝ってもらいましょう。



腎　障　害

１.原　因

腎組織への直接作用とアレルギー反応などが腎障害を起こす場合が考えられます。中には重篤な腎障害から腎不全を引き起こすこともあり、まれには血液透析が必要になることがあります。

２.対　策

① 点滴治療をした日は、水分を多めに取るように心掛けて下さい。
② 自分で尿量、尿の色を観察し、変化がある場合や頭痛、足首や手の浮腫、側腹部痛等の症状が出た場合も主治医に連絡をして下さい。

口内痛・口内炎

１.原　因

抗がん剤により口腔粘膜に損傷と炎症が生じることによって起こることがあります。
また、白血球減少が持続し、局所感染によって起こることもあります。
最初は粘膜が乾燥し、その後口内がヒリヒリ痛んだり、食べ物がしみたりします。
また、出血することもあります。
発現時期：開始後１４日位までに多く起きます。

２.対　策

①　口腔内冷却法

- 抗がん剤の点滴の最中に氷片を口に含み、口腔内の血管を収縮させることで抗がん剤が口腔内粘膜に移行する量を減少させ予防する方法です。
- 治療開始から始め、治療後しばらくの間実施します。

②　うがい

- 刺激を与えないよう、ぬるま湯でうがいをしましょう。毎食後及び就寝時の１日４回程度（朝、昼、夕食後、寝る前）行いましょう。必要であれば、主治医にうがい薬を処方してもらいましょう。
- 口の中を清潔にして乾燥させないようにします。

③　食　事

- 味付けは、極力薄味にし、酸味のあるものを避けます。
- 口内で、つぶせる程度以下のやわらかさにします。また、口内を刺激する可能性があるため、極端に熱い食べ物は避け、冷たい物又は室温程度に冷めた物を食べましょう。
- 唾液が少なかったり、飲み込むのが難しい場合は、トロミのある食事または液状の物を食べましょう。アイスクリーム、フルーツゼリー、ヨーグルト、スープなど、口当たりがよく柔らかい食品を食べましょう。

④　日常生活

- 歯ぐきを傷めないように柔らかい歯ブラシを使用し、食事の後には歯みがきをしましょう。
- 使用した歯ブラシを清潔に保つよう、心がけましょう。
- 刺激の強い練り歯みがきや口腔洗浄剤の使用はできるだけ控えましょう。
- 水分を摂取し、常に口内を湿らせておきましょう。また、軟膏やリップクリームを塗り、唇を常に湿らせておきましょう。
- 家が、暖房等で乾燥している場合は加湿器などを使用しましょう。
- 口の中がしみたり、ヒリヒリしたりするようであれば、口内炎の治療が必要となりますので、主治医または看護師にお知らせください。

下　　痢

１.原　因

抗がん剤の多くは分裂中の細胞を標的にするため分裂を頻繁に行う細胞に多くの損傷を与えます。このような細胞には、がん細胞のほか消化管の粘膜細胞が含まれます。下痢の程度には個人差があり、排便回数が増えることもあれば、性状も非常に柔らかい便から水様便の場合まであります。また腹部に激痛を感じることもあります。

２．持続期間

化学療法によって起こる下痢は通常は一時的なものです。口、胃、腸などの粘膜細胞は再生します。投薬量を減らしたり、投薬を数日間中断すると下痢も治まることもあります。

３.対　策

①　薬物治療

下痢が続く、あるいは腹痛があって下痢をしているような場合は主治医の診察を受けて下さい。下痢止めが処方されることがあります。

②　食事について

- １回に食べる量を減らし、回数を増やして食べましょう。
- 番茶のタンニンとリンゴジュースのペクチンは下痢止め作用があります。
- 繊維質の多いものを避けて食べるようにしましょう。
（おかゆ　ヨーグルト　卵　じゃがいも　など）
- 脂っこいもの、香辛料を効かせた料理、菓子類、コーヒー・紅茶、酒類は避けましょう。
- 下痢が続くと体に重要なミネラル成分のカリウムが不足がちになりますので、カリウムの多い食品を多くとるようにしましょう（バナナ、かんきつ類など）
- 水分を十分に補給しましょう。
（ミネラルバランス飲料、湯冷まし、薄めにいれて冷ましたお茶などが最適です）
- 食事中は飲み物の摂取をさけましょう。

③　日常生活において

- 脱水状態になってないか知るため、１日の排便回数を把握しておくようにします。
- 脱水の徴候（皮膚や口の中の乾燥、尿量の減少、目の落ちくぼみ）に注意しましょう。
- 肛門部分を清潔に保ちましょう。（温水での座浴、ウオシュレットの使用）
- たばこは避けましょう。
- 腹痛がある場合、下腹部を温めると腸ぜん動を鎮静させ、腹痛の緩和に役立ちます。

【下痢に適する食品と適さない食品】

	適する食品	適さない食品
主食	軟らかい米飯 下痢の程度によって 　絶食→重湯→五分粥 　うどん	麦飯 ソバ類
魚類	白身魚の煮物 脂質の少ない物	貝類、たこ、いか、海老、うなぎ その他の脂質の多い魚類、干物
野菜類	繊維の少ない軟らかい物 ジャガイモ、かぼちゃ、にんじん、ゆり根、かぶ、トマトなど	繊維が多く、コリン、ヒスタミンを多く含むもの ごぼう、レンコン、たけのこ、ねぎ、さつまいも、こんにゃく、なす、きのこ、ほうれん草など

便　　秘

１.原　因

化学療法を受けていると便秘になることがあります。これは抗がん剤の副作用の場合もありますが、運動不足や栄養状態が日常より悪くなっていることが原因の場合もあります。便秘で苦しいようであれば主治医に相談してください。

２.対　策

① 便の状態を毎日確認し通常の状態と比較しましょう。
② 排便は決まった時間にするなど生活リズムをつけましょう。
③ 排便が１～２日以上ない時は水分を十分にとりましょう。湯冷まし、薄めに入れて冷ましたお茶などが最適です。
④ 繊維質の多い食事を心がけましょう。
⑤ 軽く体を動かすよう心がけましょう。
⑥ ゆったりとした精神状態を保つように心がけましょう。
⑦ 体調にあわせ、必要以上の安静をしないようにしましょう。

【便秘に効果がある食品】

糖　質	未精米の穀類（特に玄米）、麦飯、黒パン、マメ類、イモ類、（特にサツマイモ）、そば、オートミールなど
タンパク質	大豆及びその加工品、冷たい牛乳、乳製品、卵、魚肉 （肉類は大部分が吸収され、糞便になる量が少ないので、腸のぜん動が緩慢になりやすいため、多量摂取を避ける）
脂　肪	バター、クリーム、マヨネーズ、植物性油、揚げ物、炒め物などの調理法
野菜類	ごぼう、にんじん、レンコン、たけのこ、大根、白菜、きのこ、こんにゃく、ふき、とうもろこし、セロリ、海草類など
果物類	生の果物は良い（夏みかん、イチゴ、パイナップルなど） なお、干したプラムを一晩水に浸けてたっぷりの水で煮たものを毎晩５個くらいずつ汁と一緒に食べると便通がつく。
その他	炭酸飲料、サイダー、冷水、冷食塩水、スープ、ジュース、乳糖、ハチミツ

＊タンパク質は便を硬くし、糖質は発酵してやわらかくし、脂質は滑りやすくします。

心　毒　性

抗がん剤は不整脈、狭心症、心筋梗塞や心不全など心臓に対して悪影響を与える事があります。頻度の高い副作用ではありませんが、一旦発症すると重篤になってしまう可能性があります。また、抗がん剤の副作用として現れているのか、そうで無いのかの区別も困難な事があります。我々も心臓の弱い方への抗がん剤の選択には、充分配慮しております。心臓病の既往のある方は、主治医までお知らせください。

肺　毒　性

ほとんどの抗がん剤は肺炎や間質性肺炎などを起こす事があります。程度はさまざまであり、薬の中止で改善するものから急速に呼吸不全となり、ステロイドホルモンの大量投与を必要とするものまであります。死亡例の報告もあるため、我々も十分注意しています。有効な予防策がない為、週１回のレントゲン撮影や聴診をおこない、発症しても早期発見できるようにしています。もし、抗がん剤投与中にいつもと違う咳がでたり、呼吸が苦しくなったりした場合は主治医までお知らせください。

神　経　毒　性

抗がん剤の種類によって出現する症状に特徴があります。ビノレルビン、タキソール、タキソテール等は一般に末梢神経障害（指先や口腔周囲のしびれ感）を起こす事が多く、総投与量が増える程、起こりやすくなります。また、シスプラチンでは難聴を起こす事があります。その他の抗がん剤でもさまざまな神経症状が知られていますが、残念な事にこれらに対する有効な治療法として確立されたものではありません。抗がん剤投与中に、もしこのような症状が現れた場合は、主治医にお知らせください。

抗がん剤の血管外漏出

抗がん剤は刺激性が強い薬であるため、点滴が漏れるとひどい場合は皮膚壊死等の重篤な症状になることがあります。当院ではこのような事を防ぐ為、抗がん剤の投与は、医師が血管内に点滴がきちんと入っている事を確認の上で行っています。漏れを防ぐために患者さまも抗がん剤の投与中は、可能な限り安静にしていただく事をお願い致します。また、もし点滴中に点滴部位の痛みや、腫れを感じられた場合は速やかにお申し出ください。明らかに点滴が漏れている場合には、漏れている部位を中心にキシロカインという局所麻酔薬とステロイド剤を皮下注射します。漏れた薬剤によっては皮膚科受診が必要となります。

アレルギー反応

ある種の抗がん剤はアレルギー反応を起こす事があります。症状としては軽い蕁麻疹の様なものからショックに到るものまで様々です。点滴を開始した後、急に動悸、冷汗や気分不良を感じられた場合は速やかにお申し出ください。我々は予防薬としてアレルギー反応を起こしやすい薬を投与する場合、あらかじめアレルギーを防ぐ薬を注射や内服で投与したり、薬剤によっては点滴開始後から定期的に血圧や脈拍を測定しています。

その他

その他の副作用として、発熱、皮膚障害（色素沈着、爪の変化）、膀胱障害（出血性膀胱炎）、性腺障害、不安やうつ症状、肝障害を生じる事があります。
また非常に稀なものとして腫瘍溶解症候群（抗がん剤が効き過ぎて大量の腫瘍細胞が一度に崩壊し血管内に入り、多臓器不全に到る致死的なもの）が挙げられます。
また、現在報告されているものの他に、予期せぬ副作用が出現する可能性もあります。

以上、現在知られている抗がん剤の副作用について述べさせていただきました。抗がん剤治療という事で、非常に心理的ストレスがある皆さまに少しでも快適で安全に化学療法を受けていただけるよう、我々も努力していきたいと考えております。些細な事でも結構ですから、ご自分の受けられる治療、薬剤について不安のある方は遠慮なく主治医または看護師までお知らせください。

化学療法によって起こりうる副作用と発現時期

１．投与中

アレルギー反応；動悸、息苦しさ、皮膚のかゆみ、皮膚が赤くなる、身体が熱くなるなど血管痛

２．投与後～数日

発熱

吐き気、嘔吐

皮膚が赤くなる、蕁麻疹、かゆみ

３．投与翌日～１週間くらい

食欲不振、嗜好の変化、吐き気、嘔吐

下痢、腹痛

腹満感、便秘

身体のだるさ

味覚の異常

口内炎、口内の乾燥

４．１週間～数週くらい

感染：発熱を伴うことも多い

歯肉炎、歯の痛み、歯の浮いた感じ、下顎の腫れ

咽頭炎、風邪症状

膀胱炎、小水時の痛み、残尿感、血尿

肛門周囲炎、便通時の痛み（痔があると起こりやすい）

腸炎、下痢、腹痛

出血：（鼻血・歯茎の出血・皮膚の青あざ）

脱毛：特に、２週目の後半から３～４週間

血管炎

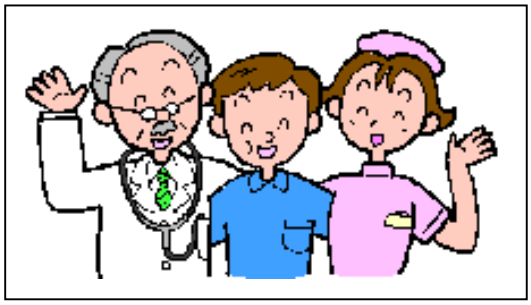
５．数週間～数ヶ月

貧血（めまい・立ちくらみ）

色素沈着（手足の皮膚や爪が黒くなる）

爪の変形

手足などの皮膚の角化・亀裂



６．数ヶ月以降

手足のしびれが続く

においを感じにくくなり、味覚の変化が続く

下肢の筋肉のこわばり

肺障害、腎障害、心機能の低下

広島市立広島市民病院

「がん化学療法を受けられる方へ」

２００７年１０月（非売品）
発行　広島市立広島市民病院
通院治療センター・西７病棟
〒730-8518　広島市中区基町 7-33
082-221-2291（内線　5662・3570）